

(様式1)

平成27年度大仙市環境教育研究指定校事業実施計画

1. 指定校の概要 (平成27年度4月1日現在)

(学校名)

大仙市立 大曲南中学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計	教員数
学級数	1	1	1				0	3	12
児童生徒数	31	27	30				0	88	

2. 研究課題及びその設定理由

(1) 研究課題と研究主題

課題例：①, ②, ④ テーマ例：a, d, e, f

研究課題 自然と子どもの心を未来につなぐ「ESD」

～「エネルギー教育」「国際理解教育」「食育」の実践を通して～

(2) 研究課題設定の理由

本校では「未来の地球 今 私たちにできること」を合い言葉に、環境教育を本校教育の核とし、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた実践に取り組んできた。近隣の小学校や地域との連携を通して「考え、行動する環境教育」の実践に取り組むことで、本校の活動は地域に定着し、双方向の交流と連携へと充実してきた。

また、「エネルギー教育」「国際理解教育」「食育」を各学年に位置付け、単なる体験に終わることなく、「思考力・判断力・表現力等の育成」を重点とした教育活動を展開し、「社会的実践力」を育てることでESDの根本となる「生きる力」の育成に努めたいと考えている。

本校では、環境学習を教育課程全般に位置付けている。総合的な学習の時間を中心とし、各教科等との関連を図った、学年ごとのカリキュラムデザインを「ESDカレンダー」として作成し、それに基づいて実践している。今年度は、学習指導要領の改善の方向性や、本校の教育目標を踏まえて見直しを図り、特に、「コミュニケーション能力の育成」を重視した学習活動を展開することで、目標とする生徒の「生きる力」により一層結びつくような取組を展開したい。

環境教育の目的は「持続可能な社会に向けた人づくり」である。そのために必要な「思考力・判断力・実践力」等を身に付けた「生徒」を育むためにも、「人」「教材」「能力・態度」のつながりを強く意識しながら、地域を巻き込んだ活動を展開することでESDに迫りたいと考え、本研究課題を設定した。

3. 研究内容

学習指導要領の改善の方向性に示されている、これからの子どもたちに必要とされる資質・能力や今年度の教育目標を踏まえ、各学年の学習内容について見直しを図る。その上で、小学校や学年間の系統性を踏まえて「ESDカレンダー」を再編し、実践する。また、これまでの小学校や高等学校、地域との連携、外郭団体等との関係を維持しながら、さらに、大学や海外のユネスコスクール等との交流と連携を推進し、「国際理解教育」の分野を深めながら、更なる環境教育の充実を図る。

(1) 組織体制

全教職員が次の3部門のいずれかに所属し、各部門の連携のもとに全校体制で研究を推進する。

- ①指導計画・調査資料部 …資料整備, 指導計画, アンケート分析, 評価, 予算会計等
- ②授業研究部 …授業の計画と推進, 指導案作成と検討, オープンスクール等
- ③体験・連携部 …各種体験活動の計画, 小・中・高・大・ユネスコスクールとの連携, 記録, 環境通信発行等

(2) 主な取組内容

〈「環境教育」全体に関わる取組〉

- 4月 ・「E S Dカレンダー」作成
- 7月 ・親水公園クリーンアップ
・小・中合同クリーンアップ
- 8月 ・アルミ缶，ペットボトルキャップ回収活動
・夏休み環境課題（作文，写真，ポスター等）
- 10月 ・環境学習発表会（学校祭で）
- 11月 ・オープンスクール（環境学習発表会等）

※小・中学校連携で地域の環境を保全する活動に取り組むことで，環境保全に関する意識や行動力を高めるとともに，持続可能な社会づくりに主体的に参画できる生徒を育てる。

〈「食育」の視点からの取組〉 1年生

各教科で「食育」に関連する内容を，各学年の「E S Dカレンダー」に位置付ける。

- 6月 ・緑のカーテンプロジェクト（ゴーヤ栽培）開始
・「有機肥料で育てる野菜」栽培開始
- 7月 ・秋田市内の食品関連企業訪問
- 9月 ・微生物の役割についての講演会（大曲農業高校と連携）
・省エネクッキング出前授業（あきた地球環境会議）
・大仙市食生活改善推進委員による調理授業
- 10月 ・「有機肥料で育てる野菜」を使用した調理実習

※緑のカーテンのゴーヤ栽培，給食残飯を利用した有機肥料使用の野菜栽培を行い，毎日の「食」と環境との関わりについて考える機会とする。外部団体による出前授業を活用する。

〈「エネルギー教育」の視点からの取組〉 2年生

各教科等で「エネルギー」に関連する内容を，各学年の「E S Dカレンダー」に位置付ける。

- 6月 ・緑のカーテンプロジェクト開始
- 7月 ・風力発電所見学・ゴミ焼却場見学
・ワークスクーリングでのエコ学習
- 8月 ・大仙市環境家族宣言参加
- 12月 ・企業等による出前授業

※東日本大震災後の様々な経験を踏まえ，エネルギーについて多方面から学習を進めることで，持続可能な社会を構築していくために，これからのエネルギーと自分たちができることについて考える機会とする。

〈「国際理解教育」の視点からの取組〉 3年生

各教科等で「国際理解」に関連する内容を，各学年の「E S Dカレンダー」に位置付ける。

- 5月 ・大仙市C I Rによる国際理解学習出前授業活用
・海外の環境問題調査
- 9月 ・秋田国際教養大学訪問（環境についてのポスターセッション）
- 10月 ・国際教養大学の留学生との交流（「生き方」についてのディスカッション）

※海外のユネスコスクールとのメール等での交流を進める。地球環境を経済や国際関係から理解することを通じて，グローバルな視点で取り組むべきことと，個として自分ができることを考える機会とする。

(3) 共有化の方策

校内に「E S D環境学習コーナー」を設置し，生徒の学習状況や成果を掲示するとともに，学校報や学年報，環境通信，学校のホームページ等を通して，保護者や地域に向けて学習の成果を発信する。また，オープンスクールを開催し，小・中学校の取組についての情報交換の機会にするとともに，地域や市内の学校にも参加を呼びかけ，本校の取組を広く知ってもらい，成果を評価してもらう機会とする。

4. 地域との連携内容

- 5月 ・有機肥料で育てる野菜栽培
給食センターの残飯を利用した堆肥を使って、地域の方の指導のもとに野菜栽培をする。
- 7月 ・小・中合同クリーンアップ
小・中学生を縦割りにし、20前後のグループに分け、自分が住んでいる地域のクリーンアップを中学生がリーダーとなって行う。
- 8月 ・ゴーヤの実の無料配布
本校で育てたゴーヤの実を地域の皆さんに分けて、収穫の喜びを分かち合う。
- 10月 ・親水公園ボランティア
地域の環境団体が行うクリーンアップに参加する。
- 11月 ・「オープンスクール」で授業を地域や市内の学校に公開する。

5. 本事業における取組の評価・検証の計画

- ①学習前と学習後のイメージマップの比較
学習の深まりを評価・検証する。
- ②学習前後の意識調査（アンケート）の比較
環境問題に対する意識の変容を検証する。
- ③学習中のパフォーマンス評価
付箋^{せん}を使った評価や、プレゼンテーションの評価を行う。
- ④生徒の感想等の記述からの評価
ポートフォリオから、生徒の変容を確認する。
- ⑤ESDの評価
「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の7観点から評価し、指導に生かす。
- ⑥行動評価
エコチャレンジ等実施後に評価する。
- ⑦教師へのアンケート調査
カリキュラムの評価、生徒の変容の評価のためのアンケートを行う。
- ⑧各教科等での評価
各教科等に付加した環境教育のねらいを、単元（題材）の評価と同時に行い、フィードバックする。